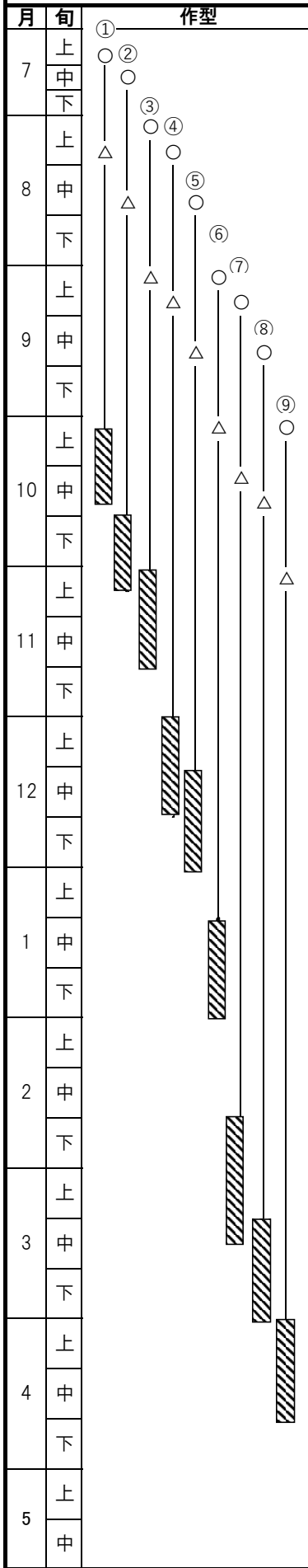


安全・安心なブロッコリー作りのため、機具洗浄の徹底並びに生産履歴の記帳を必ず行って下さい！



作業の要点

・目標収量：1t/10a
 ・圃場選定：①有機質に富み、保水力があり、排水の良い圃場を選ぶ。
 ②土壌pHが6～6.5で、かん水可能な圃場が望ましい。

・完熟堆肥は定植の1ヶ月前までに、苦土石灰、BMよりりんは定植の1～2週間前までに施用し、耕耘しておく。
 ・ハイパーCDU顆粒-2は、苗の徒長防止のため、定植3日前～前日に施用する。
・本葉3～4枚時(30日苗)セル苗に殺虫剤を灌注処理し定植する。
 ・定植後は、直ちに灌水し、活着を促進する。
 ・活着後のネキリムシやシンクイムシ(メイガ類)の発生に注意する。
 ・ヨトウムシ類、タバコガ類の発生に特に注意し、葉の食害や透かし葉など害虫の発生が確認される場合は出蕾前に必ず防除を行う。
 ・花蕾形成初期(花蕾1cm大の頃)に銅剤による予防的防除を行う。
 ・追肥は作型に応じて、BBNK2号を施用する。

●追肥10a当たり施用量(kg/10a)

施用時期の目安		定植時期		
		8/10～20	9/1～10	9/20以降
第1回目	定植後15日頃	20	20	20
第2回目	第1回追肥後20日頃	—	—	20
第3回目	出蕾時	—	20	30

* 出蕾時の追肥は、草勢が強い場合は減肥するか無施用とする。
 * 追肥後は、倒伏防止と肥効を良くするため土寄せを行う。
 * 乾燥時は、ホウ素欠症状(茎のカサブタ)が出やすいので、灌水する。

・花蕾の大きさは、直径12cm(L級中心)で収穫する。(花蕾が大きくなり過ぎないように若採りを行う)
 ・品質保持のため、必ず早朝に収穫する。
 ・収穫後は、品温が上昇しないよう、日陰におき、テクミラーシートで覆う。
 ・出荷時もテクミラーシートで覆い、風に当たらないようにする。
 ・氷詰めは、定められた氷の量を守る。

●作型・品種

作型 (定植日)	品 種	作業時期		栽植密度(cm、2条、株/10a)					
		播種期	収穫期	畝幅	条間	株間	株数	トレイ	
① 8/10	A	7/10	10/上～	140	60	35	4,080	32	
② 8/20	B,C	7/20	10/下～	140	60	35	4,080	32	
③ 9/1		8/1	11/上～						
④ 9/10	D	8/10	12/上～	140	60	32	4,460	35	
⑤ 9/20	D	8/20	12/中～	140	60	32	4,460	35	
⑥ 10/1	D,E	9/1	1/中～						
⑦ 10/10	E,F	9/10	2/下～	140	60	35	4,080	32	
⑧ 10/20	G	9/20	3/中～	140	60	35	4,080	32	
⑨ 11/1		10/1	4/上～						

* Aは標高200m以上の圃場に作付けする。
 * 11月定植は被覆栽培を行い、生育を安定させる。

●慣行施肥 (kg/10a)

肥料名	総量	基肥	追肥
完熟堆肥	2,000	2,000	
精粒苦土石灰	100	100	
粉状石灰窒素(N:21%)	40	40	
BMよりりん(P:20%)	30	30	
BBダイナミック有機(12-10-8)	100	100	
BBNK2号 (16-0-16)			
① 8/20定植まで	20		20
② 9/1～10定植	40		40
③ 9/20以降定植	70		70

① N: 23.6 P: 16.0 K: 12.2
 ② N: 26.8 P: 16.0 K: 14.4
 ③ N: 31.6 P: 16.0 K: 19.2

●減量施肥 (kg/10a)

肥料名	総量	基肥	追肥
完熟堆肥	2,000	2,000	
精粒苦土石灰	100	100	
粉状石灰窒素(N:21%)	40	40	
BMよりりん(P:20%)	30	30	
ハイパーCDU細粒-2(N:30%)※	1.6	1.6	
BBダイナミック有機(12-10-8)	80	80	
BBNK2号(16-0-16)			
① 8/20定植まで	20		20
② 9/1～10定植	40		40
③ 9/20以降定植	70		70

① N: 21.7 P: 14.0 K: 9.6
 ② N: 24.9 P: 14.0 K: 12.8
 ③ N: 29.7 P: 14.0 K: 17.6
 ※ハイパーCDU細粒-2は、育苗中、50g/128穴トレイ施用